

記録
16ミリ
カラー／27分
日・英語版

- 企画
日本学術振興会
- 原案
東京大学医科学研究所教授 佐々 學
- 指導
鈴木 博

スタッフ

- 製作
村山英治
- 脚本・演出
村山正実
- 撮影
小林一夫
- 選曲
深沢康雄
- 解説
滝田裕介



アマミノクロウサギ

文部省特選 1976年教育映画祭最優秀作品賞・文部大臣賞 第17回科学技術映画祭科学技術庁長官賞・財団賞 第31回毎日映画コンクール教育文化映画賞 第1回優秀動物愛護映画コンクール優秀賞・レディガスコイン賞 第1回国際科学映画コンクール銅賞 第20回日本紹介映画コンクール特別賞 第32回東京都教育映画コンクール銀賞 1976年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第6位

この映画は、地球上でこの奄美の森にしか生息していない貴重な動物たちの記録である。現代の環境の変化は激しい。何年かしたら、この動物たちは永遠に姿を消してしまうかもしれない。映画は、自然保護がいかに大切か、無計画な開発がいかに恐ろしいかも訴える。



奄美、沖縄を含む南西諸島は、古くから大陸からも日本列島からも隔離されていた為に、アマミノクロウサギなど、世界でも類例のない特異な動物相を示している。ところが、この群島も開発によって傷つけられ、これらの動物達が生存し続けられる原生林は、現在では、奄美の湯湾岳頂上付近のごく僅かな地域のみとなっている。奄美・沖縄にはハブ咬症、フィラリア症など特有の動物に起因する風土病も多い。奄美病害動物研究施設の常駐研究員・鈴木博とその家族が赴任した。鈴木は衛生昆虫学が専門で、ツツガムシを追って宿主である動物たちの生態を観察し続け、数々の成果をあげた。彼は森林の中をフランネルの布を体に巻き付け引きずって歩く。

この方法で、ダニ等の寄生動物を生きたまま採集できるばかりでなく、ハブ等の危険に備えることもできた。また、毎晩同じ時刻に同じコースの林道をジープで廻り、眼に留まった動物について場所と動物名を録音テープに記録して、奄美の原生林の動物分布図を作った。さらに動物の巣穴を探し、その土を採取してダニの種類を調べ、何の巣穴か推理して、動物たちを脅かしたり捕獲しないでその生態を観察する。そしてアマミノクロウサギの糞や、草の噛み跡を調べ、その生息数や分布を推理していった。